

アイスホッケー活動再開に向けた北海道ローカルルール（第2版）

1 はじめに

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大に伴い、アイスホッケーを含む全てのスポーツ活動が自粛となっています。コンタクトスポーツであるアイスホッケーは、ボディチェックなどの密な身体接触があり、仮に一人の選手やスタッフが、コロナウイルスに感染していた場合、プレーヤー全員が濃厚接触者となり、隔離と検査が必要になってしまいます。

北海道では、6月1日に特定警戒都道府県指定が解除され、徐々にリンクも再開されました。しかしながら、すぐ元のようにアイスホッケーを再開できるわけではありません。

スポーツ再開が選手、選手の家族、関係者、地域社会における感染拡大につながらないため、早く元どおり制限なくアイスホッケーを行えるように、北海道アイスホッケーローカルルールを作成します。

2 ローカルルールの運用方針

ローカルルールはあくまで、安全に活動再開への助言であり、参照すべき留意点等をまとめたものです。決して拘束力のあるものではありません。各チーム（ジュニア、中学校、高校、大学、社会人）においては、市町村の方針や施設の感染防止対策を遵守しながら、選手の安全を最優先として、活動の開始時期や練習内容、事業実施の可否について判断してください。

3 活動の再開

新型コロナウイルスは発症する2日前の症状のない方からも感染する可能性があります。普段から感染しないために、換気の悪い密閉空間、多くの人が密集している密集場所、近い距離での会話や発声が行われる密接場面、いわゆる三つの密を回避するとともに、身体的距離の確保やマスクの着用、手指衛生などの基本的な感染対策を継続し、新型コロナウイルスを想定した北海道が示した「新しい生活様式」を積極的に取り入れてください。

現場スタッフや指導者は、再開の前に感染予防対策を立てる必要があります。予防対策を①準備するもの ②行動の注意点、③アイスリンク活動と分けて説明します。

① 準備するもの

- ヘルスチェック（家で健康チェック）：
 - * 体調が良くない場合（例：発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合）や同居家族や身近な知人に感染症が疑われている方がいる場合は練習参加を見合わせる
 - * 練習開始前にも現場で体温チェックや手洗いを行う
- 練習記録作成（練習参加メンバーの記録など）：チームに感染者がでた場合、感染経路の追跡等に必要、可能ならセット練習のメンバーは固定する

- 北海道コロナ通知システムの利用：
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/coronaalertsystm.htm>
- 手洗い場の確保：石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意。手洗いを30秒以上行うよう掲示、もしくは周知をする。
- チームで手指消毒剤を準備：トレーニング前後に環境や器具（複数の関係者が触れると考えられるドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）を消毒し、こまめに換気
- チームで体温計、マスク：体温計は非接触性タイプが望ましい。マスクがなければ練習参加させない。

② 行動で注意する点（ルール作成、教育など）

- 人と人の距離を空ける（1～2m）
 - * 選手やスタッフのみならず、保護者も離れた場所で、他の保護者の方々と距離（2m以上）をとり、常にマスクを着用し、大声での声援や会話は控える。
 - * WHOの定義では、1m以内に15分以上いると濃厚接触者になります。
- 車の相乗りをしない、やむを得ない場合マスク着用し、あまり会話をしない
 - * リンクへの移動問題は重要です。やむを得ない場合、特にジュニアでは上記危険性を理解した上で、父母に同意を得ることも考慮します。
- 手洗いをしっかり行う
- 咳エチケット、マスク着用
 - * 運動時マスク着用は現場で判断する。マスク着用で十分な呼吸ができないことによる低酸素症や熱中症などには留意してください。
- 握手、抱きつかない、密集しない

③ アイスリンク活動

施設の感染防止対策を尊重し、遵守する。

- 選手とスタッフが会場に到着した時点で、実施可能な検査による体調チェックを行う。
- 選手はスケートを除き完全に防具を装着した状態でリンクに到着する（更衣室が使用できない施設もあります）。
- 各練習終了後に、ヘルメット、スティックおよびスケートを消毒する。
- 各練習終了後に、衣類を洗浄する。
- フルフェイスバイザーを装着することを検討する（つばが飛散しづらい）。
- 練習中もソーシャルディスタンスを確保する。
- コンタクトプレーは、当面の間禁止（感染のリスク）。
- その他、チームや地元連盟、施設毎のルール作成
例) 氷上で集合する回数を減らす
ベンチに座る場合、距離を空ける

グローブやエルボーでのタッチは認める
ベンチの入り口は一方通行にして、選手が重ならないようにする
感染の多い地域から他の地域に移動することを避ける

上述の感染防止策を講じたうえで、アイスホッケーを再開します。ジュニア、中学校、高校では、感染予防対策を父母らと情報共有することも重要です。北海道内での感染発生数も地域差があり、各地域で状況も異なります。各市町村や教育委員会、地元連盟方針を遵守し無理な計画をたててはいけません。

感染者減少と共に段階的に制限も緩和されていきます。それに並行して、練習内容の制限も段階的に緩和されていき、コンタクトプレーも許可されていきます。都市間や道外との移動制限も緩和されてきたら、人間の移動も可能になり、厳密な対策を施した後に試合ができる環境が整います。

4 段階的活動再開

安全にアイスホッケーを再開する初期は、少人数グループ練習や、厳格な衛生管理が必要となります。また、感染の恐れがあった場合、追跡調査ができるような体制を準備することも必須になります。これを疎かにすると昼カラオケやホストクラブのようにクラスターを発生してしまう危険性もあります。

濃厚接触する危険のあるアイスホッケーでは、慎重に社会の感染危険度に合わせ、一気にではなく段階的にアイスホッケーを再開する必要があります。

初めは、安全を第一に考え制約が厳しく、アイスホッケーを取り巻く環境はこれまでとかなり異なるものとなります。こんなのはアイスホッケーではないと嘆く選手が大半だと思います。しかし、アイスホッケーに関わるひとりひとりに、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐ責任があります。

後述の再開ロードマップは、活動再開へ医事委員会の提言であり、決して拘束力のあるものではありません。参考にさせていただき、各地域の実情にあったロードマップを作成して下さい。

また、その適用にあたっては、その時点での政府及び各自治体や上位団体の発信する情報を参考に修正する必要性もあります。

令和2年6月4日第一版発行
令和2年6月13日第二版発行
北海道アイスホッケー連盟医事委員会

フェーズ1-最高警戒レベル

トレーニング単位	個人
トレーニング内容	体力トレーニング、個人による基礎技術練習
衛生条件	ソーシャルディスタンス要、マスク要 リンク使用不可
期間	非常事態宣言期間（～5/31）

フェーズ2-高警戒レベル

トレーニング単位	グループ
トレーニング内容	体力トレーニング、相手をつけない少人数基礎技術練習 氷上トレーニング、相手をつけない少人数基礎技術練習
衛生条件	ソーシャルディスタンス要、マスク要・場合により非着用 リンク更衣室使用不可
期間	6/1～14

フェーズ3-中警戒レベル

トレーニング単位	チーム単位
トレーニング内容	体力トレーニング、相手をつけないチーム単位練習 氷上トレーニング、相手をつけないチーム単位練習
衛生条件	ソーシャルディスタンス要、マスク要・場合により非着用 原則リンク更衣室使用不可
期間	6/15～28

フェーズ4-低警戒レベル

トレーニング単位	チーム単位
トレーニング内容	体力トレーニング、相手をつけたチーム単位練習 氷上トレーニング、相手をつけたチーム単位練習 コンタクトはまだ禁止
衛生条件	ソーシャルディスタンス要、マスク要・場合により非着用 原則リンク更衣室使用不可
期間	6/29～7/12

フェーズ5-予防警戒レベル

トレーニング単位	任意
トレーニング内容	コンタクトを含めた全ての練習及びトレーニング
衛生条件	ソーシャルディスタンス緩和、マスク任意 リンク更衣室使用可 都市間の移動制限が解除されれば、対外試合可